

新卒 U ターン志向者の就職意識と支援の課題 —福井県の事例からの考察—

福井県立大学地域経済研究所 中里 弘穂

1. はじめに

本稿は 2022 年 6 月 14 日に開催された佐賀地域経済研究会の基調講演をもとにまとめたものである。少子高齢化が進む近年において、多くの地方自治体は若年層が転出超過の状況にあり、その抑制が喫緊の課題である。若年者の地元定着は労働力の確保のみならず地域産業の発展やその後の人口増加にも重大な役割を果たす。そのために地方の自治体は高校卒業後地域外に進学した若者の U ターン就職支援に力を注いでいる。

筆者は 2017 年に福井県を例として、県外の大学等に進学した若者の地元への U ターン就職を促進するための課題を福井県立大学『地域経済研究』に投稿した。今回その論文が佐賀地域経済研究会様の目に留まり、このような講演にお招きいただいた次第である。北陸地方と九州地方とかなり離れた地域ではあるが、同じような課題を抱えていることを改めて認識し、福井県を例とした研究ではあるが、佐賀県様の若年層地域定着にお役に立てば幸いである。

本稿では、地域定着を促進する若年層を新規学卒者に限定し調査を進める。既卒者を含めるとその所在が不明確になり、自治体等の情報提供や就職活動の状況把握が難しくなるためである。また新卒 U ターン者については、福井県内の高校を卒業後、県外に進学し卒業後福井県に就職する場合と規定する。若年層の地域定着増加においては他

の地方または都市部の高校出身者が別の地方、例えば福井県に就職する I ターンももちろん歓迎される。自治体の施策等が I ターンにも適合する場合には、UI ターンと表記する。

本稿ではまず福井県の新規学卒者の地域定着の状況を紹介する。その上で新規学卒者の地元定着を増加させるために、福井県外出身で福井県内大学に在学する学生の福井県企業等への就職状況を把握し、地元企業への就職促進の可能性を考える。次に高校卒業後、福井県外の大学等に進学した学生が U ターンし地元企業等への就職を増加させる方を考察する。県外の大学等に進学した学生の地元就職を促進するためには、地元就職に対する学生の意識や就職活動の状況を把握すること、地元企業等の就職情報を県外進学学生に的確に届けること、さらに地元就職の魅力や仕事のやりがいをいかに県外進学学生に伝えるかがポイントになると考える。

本研究では筆者が実施した福井県出身の他地域進学学生へのアンケート調査や都市部の大学の就職支援部署への訪問調査、また福井県経営者協会が実施した福井県インターンシップに参加した学生への就職行動調査、企業調査などから分析し、新規学卒者の UI ターン就職を促進するための課題と方策を考察していく。

2. 福井県の新規学卒者の地域定着

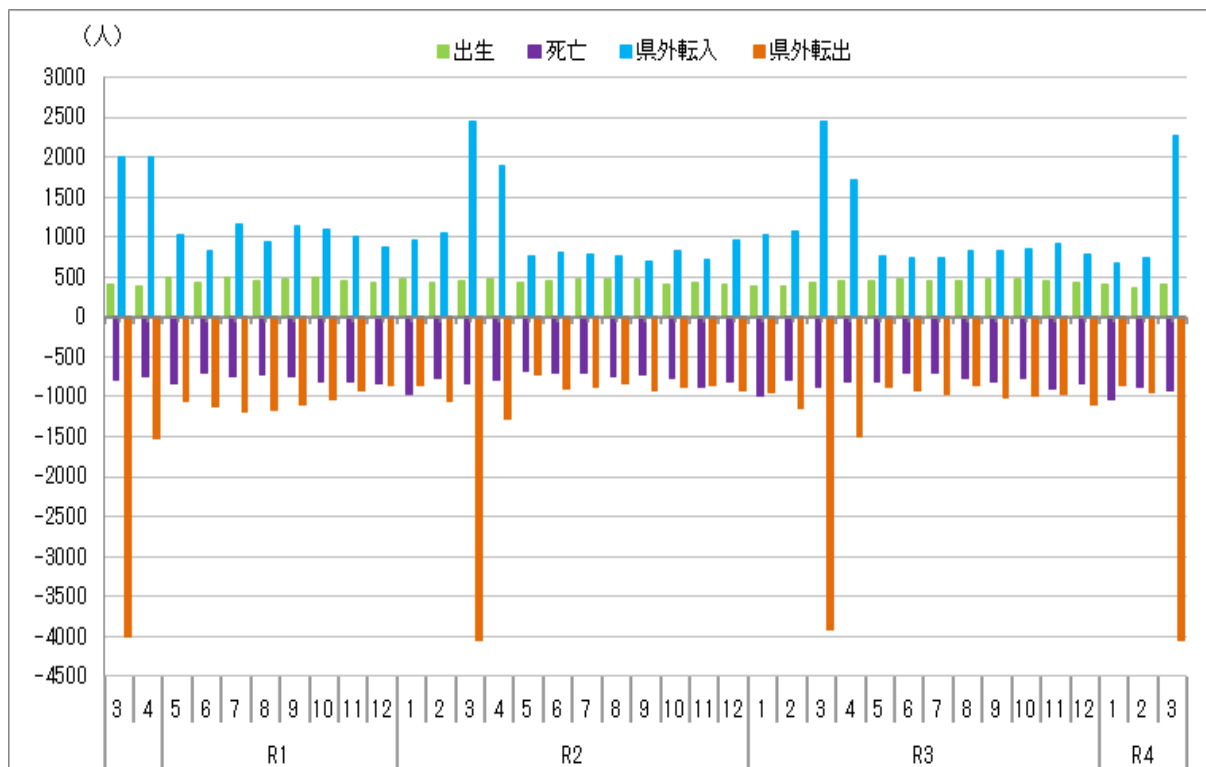
福井県は北陸地方に位置し、石川県、岐阜県、滋賀県、京都府と接している。人口は75万5千人余り（2022年5月現在）で全国43位の小さな県である。人口約80万人（同）全国41位の佐賀県よりも人口は少ない。2022年5月の有効求人倍率は1.99倍と高く48か月連続で全国1位となっており、求人状況は非常に良いと言える。女性の労働力率は54.2%で全国2位、共働き率は58.6%で全国1位と女性の働きやすい県である（2015年国勢調査による）。幸福度ランキングは全国1位（2020年一般財団法人日本総合研究所調査）、持ち家面積は164.7㎡で全国2位（2018年住宅土地統計調査）、待機児童0人（2020年福井県子ども家庭化調査）、世帯の貯蓄額1856万円、全国3位（2015年総務省全国消費実態調査）と暮らしやすい地域と考えられる。これらの数値は福井県が作成した2022年の新規学卒者向け合同企業説明会パンフレットに掲載されているもので、「働きやす

く暮らしやすい地域」であることをPRしている。

しかしながら、図1のように毎年3月の県外転出者は転入者を大きく上回り、高校卒業後に県外に進学した学生が地元に戻っていない状況は明らかである。福井県の2021年卒業の高校卒業者の進学地域は、福井県内が32%、関西地域が29%、関東が12%、中京が11%、石川・富山県が10%となり（福井県定住交流課提供資料による）、毎年約7割の若者が県外に転出する。それらの若者が卒業後福井県内に就職するUターン比率¹は、2019年32.1%、20年26.5%、21年27.2%と20%後半から30%前半に過ぎない。Uターン率が高いのは距離的に近い北信越地域、中京地域、関西地域の順である。男女の比率に差はほとんど見られないとのことである（同課調査による）。

新規学卒者のUターンを促進するために福井県はじめ県内自治体は様々な施策に取り組んでいるが、それについては後述する。

図1 福井県の県外転出・転入人口の推移



出所：福井県 HP より筆者作成

3. 県外出身学生に地域就職の魅力を伝える

福井県内には福井大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、福井県立大学の5つの大学が立地する（看護・医療の専科大学を除く）。佐賀県においても佐賀大学、西九州大学、佐賀短期大学、九州竜谷短期大学の4つの大学が立地する。これらの大学に入学した県外出身学生は2年から4年間を福井県ないしは佐賀県で過ごす。この県外出身の学生たちに地域の魅力を伝え、地域への就職を促進することはできないのか。福井県立大学を例として、県外出身学生の地域就職の状況を考察する。

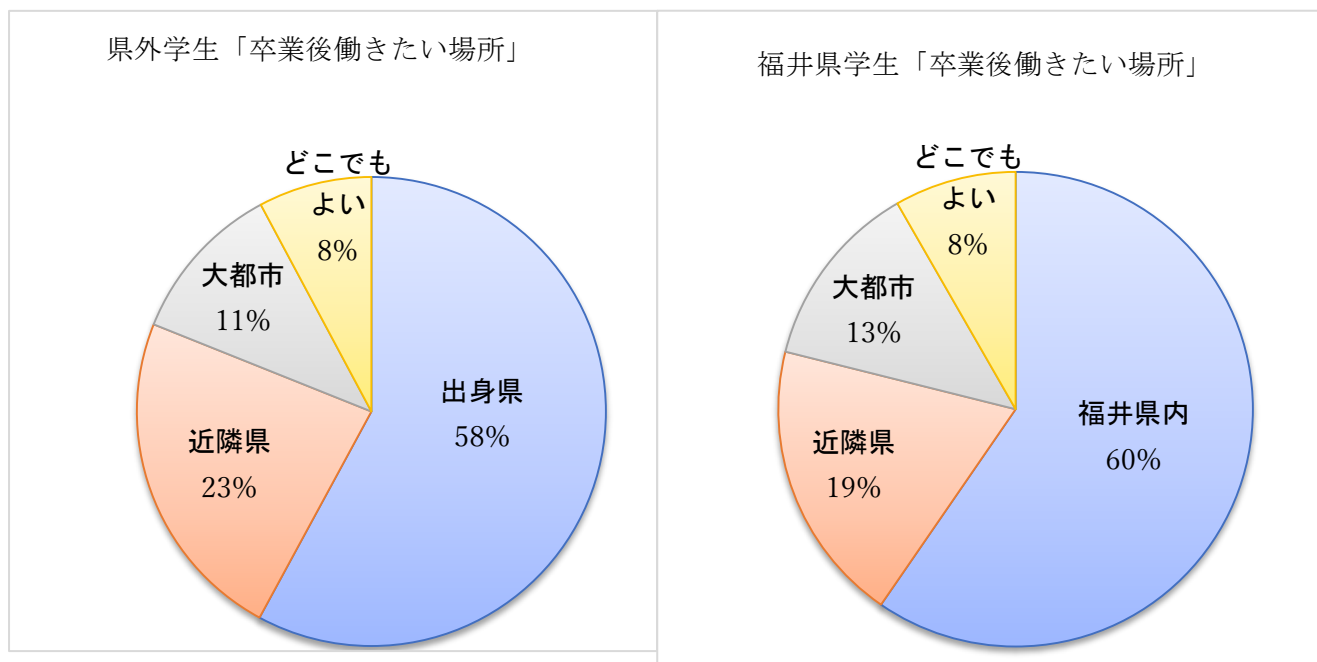
福井県立大学は、福井県永平寺町と小浜市、あわら市にキャンパスのある公立大学である。1学年の学生数は2022年の場合、経済学部231名、生物資源学部76名、海洋生物資源学部84名、看護学部87名の4学部、計478名の小さな大学である（同大学HPによる）。この中で経済学部の学生の県内出身学生、県外出身学生の就職地域を分析

する。経済学部の場合4年後の2022年3月に卒業する2018年の入学者は、福井県内出身者が57.7%、県外出身者は42.3%とやや県内出身者が多い。その年により多少異なるが県内出身学生が半数よりやや多いという状況である。

筆者は2021年3月まで、経済学部1年生対象の「キャリアデザイン概論Ⅰ・Ⅱ」を担当しており、95%から98%ぐらいの学生が受講していた。毎年1年生の5月ごろに現時点での就職希望地域について調査を行った。その結果が図2である。就職希望地域は毎年ほぼ変わらず、福井県内出身者の約6割が福井県内での就職を希望し、近隣県での就職希望が20%弱、大都市での就職希望が15%位、どこでもよいとの回答が10%弱になる。福井県外の出身者も自分の出身地での就職を希望するとの回答は6割弱になる。

ではこの経済学部の学生たちはどの地域に就職したのか。2022年3月に卒業した福井県内出身の経済学部の学生は、77%が福井県内の企業・団体等に就職し23%が福井県外の企業・団体に就職し

図2 就職希望地調査



出所：福井県立大学経済学部1年生調査より作成（2019年186名回答）

ている²。一方で福井県外出身の学生は 82%が自分の出身地を含め福井県外の企業団体に就職しているが、18%の学生が福井県内の企業・団体に就職している（福井県立大学キャリアセンター提供資料による）。毎年県外出身の経済学部生の 20%位が、福井県内企業・団体等に就職している状況が発生している。

福井県内の他の大学の県外出身学生は、どの程度地域に就職しているのか。今回福井県内の 4 大学に問い合わせを行った。問い合わせの段階でまず「県外出身で福井県内企業等に就職する学生はほとんどありません」という反応が返ってきた。しかしながら福井大学工学部の場合、県外出身者 166 名のうち 10.2%が福井県内に就職し、福井工業大学工学部の場合、県外出身者 466 名のうち 12.5%が福井県内に就職している。仁愛大学は県外出身者が 22 名と少ないが 14.0%が福井県内に就職し、仁愛女子短期大学には県外出身者はいないという状況であった(2022 年 3 月)。

入学当初、就職希望地域は自分の出身県や近隣県と考えていた学生の 10%から 20%が大学立地地域に就職していることは大きな数字ではないか。であるならば、大学在学中に地域の魅力を学生に伝えることは、地元就職の若者を増加させるために有効なのではないであろうか。福井県に就職した県外出身学生は、なぜ福井県を就職先に選んだのか。残念ながらそのような調査を行っていないため、正確な理由は不明である。学生の就職相談に対応している福井県立大学キャリアセンターの職員の話を見ると、「福井県出身の親しい友人ができたから」「福井県の自然や環境が気に入りそこで暮らしたいと思った」という理由と共に「ゼミで地域のことを学び、やりがいを感じた」「授業で地域企業の魅力に触れその企業に就職した」などが上がってきた。

福井県立大学で筆者が担当していたキャリア教

育科目では 1 年生の段階から企業人の講話を聴く機会や福井県内の職場見学会を多く設定した。就職のためではなく、地方の小さな大学の学生に少しでも社会性を養う機会を提供するためである。経済学部の専門科目やゼミでも福井県内の企業からゲストスピーカーを招く場合は多い。実際に筆者の授業で招いた講師の企業に魅力を感じ就職した学生は、毎年数名聞いている。

新規学卒者の地域定着を増加させるための方策として、まず地域の大学に在籍している県外出身学生に地元企業等の魅力を伝え、就職活動に入る前に地域の企業・団体等を就職先として考えてもらうことは有効であろう。

4. 自治体の地域就職の促進策

次に自治体を実施している新規学卒者の地元就職促進策を考える。地方の県や市町では新規学卒者の地域定着や UI ターン就職を促進するために様々な施策を実施している。今回は福井県の実施している施策を例にその有効性や課題を考察する。

福井県が実施している主な UI ターン促進施策は、次のようなものになる。(1)UI ターンセンターの開設。現在、福井・東京・大阪・京都・名古屋の 5 か所に開設し学生や社会人の就職相談に対応している。(2)福井県インターンシップの実施。福井県経営者協会が事務局を務め 2021 年には福井県内外の学生約 500 名が参加した。(3)合同企業説明会・企業研究会の開催。毎年 2 月または 3 月に福井県内企業等が一堂に会する企業説明会を開催し、県外の学生も 160 から 200 名ぐらい参加する。(4)県外大学との就職支援協定の締結。福井県の学生が多く在学する関西、中京、関東の 49 大学と就職に関する支援協定を締結し、福井県の就職イベント情報や福井県企業の情報を

学生に発信してもらう。(5)保護者対象の職場見学バスツアーの実施。福井県企業をバスで巡り、保護者に県内企業の魅力を知ってもらう。(6)

「就活先輩サポーター」の認定。福井県内に就職した若手社会人を「就活先輩サポーター」として認定し就職活動を支援してもらう。2021年度は243社、981名が登録されている。

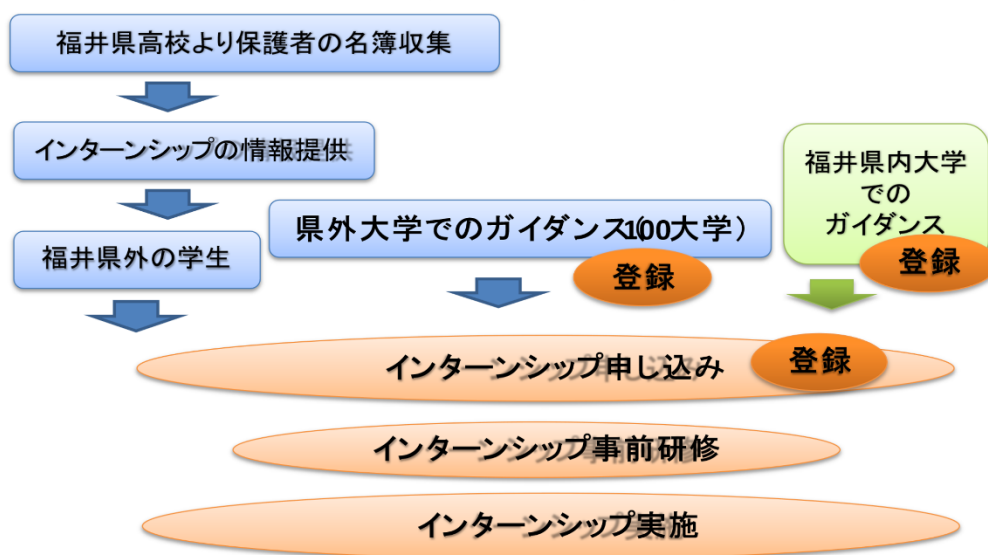
この中から、福井県インターンシップと県外大学との就職支援協定の締結について、実施の流れと効果を見ていく。福井県インターンシップは福井県経営者協会を事務局とし同会の職員が企画、受け入れ企業の募集、参加学生の募集を行い、その後の福井県内企業の就職情報の提供に大きな役割を果たしている。まず高校3年生の10月ごろに行われる進路決定の3者面談の機会を利用し、進学後に福井県の就職情報の提供について同意を得る。大学3年次の春に保護者に福井県インターンシップの情報を送り、県外に進学した子供にインターンシップの参加と福井県の就職情報サイト

への登録を促す。保護者から情報を得た学生のうち希望者がインターンシップに申し込む。これと並行して福井県外の約100の大学でインターンシップのガイダンスを行い、参加者を募ると同時に福井県の就職情報サイトへの登録を呼びかける。福井県内の大学でもインターンシップのガイダンスを行い、参加と共にサイトへの登録を促す。インターンシップへの参加呼びかけと共に、福井県の就職情報サイトへの登録を促すことが重要で、この後学生に福井県の就職イベントの情報を発信し福井県企業の情報入手できることになる(図3)。

福井県インターンシップは毎年、8月から9月に実施され、2021年の場合原則2週間の長期コースが7社、原則5日間の短期コースが112社で実施された。参加学生は県外大学が196名、県内大学296名である。2020年に経営者協会は、インターンシップ参加者にその後の進路調査を実施した。回答数は県外学生82人、県内学生56人とやや少

図3 福井県インターンシップ実施の流れ

福井県インターンシップ (事務局:福井県経営者協会)



出所：福井県経営者協会提供資料より筆者作成

ないが、傾向は把握できる。

同調査によればインターンシップ参加者のうち県外大学の学生の78%、県内大学の学生の79%が福井県内に就職したと回答している。ただし、必ずしもインターンシップ先に就職したわけではない。インターンシップ先への就職は県外大学の学生の場合15%に過ぎず、県内大学の学生の場合でも25%にとどまっている。この結果をどのように考えるのか。一つには申し込む時期が大学3年生になったばかりの4月下旬から5月初旬で、まだ志望が固まっていない時期にインターンシップ先を選ぶことが原因と考えられる。また、筆者が福井県内のインターンシップの様子を見学させていただいたところ、個人で与えられた仕事を遂行するというよりも、グループで行動、グループでの意見交換が多く取り入れられていた。大学生のことが容易に仲間づくりを行い、情報交換が始まる。つまりインターンシップ参加が就職活動の開始になり、そこから視野が広がっていくことが想像できる。

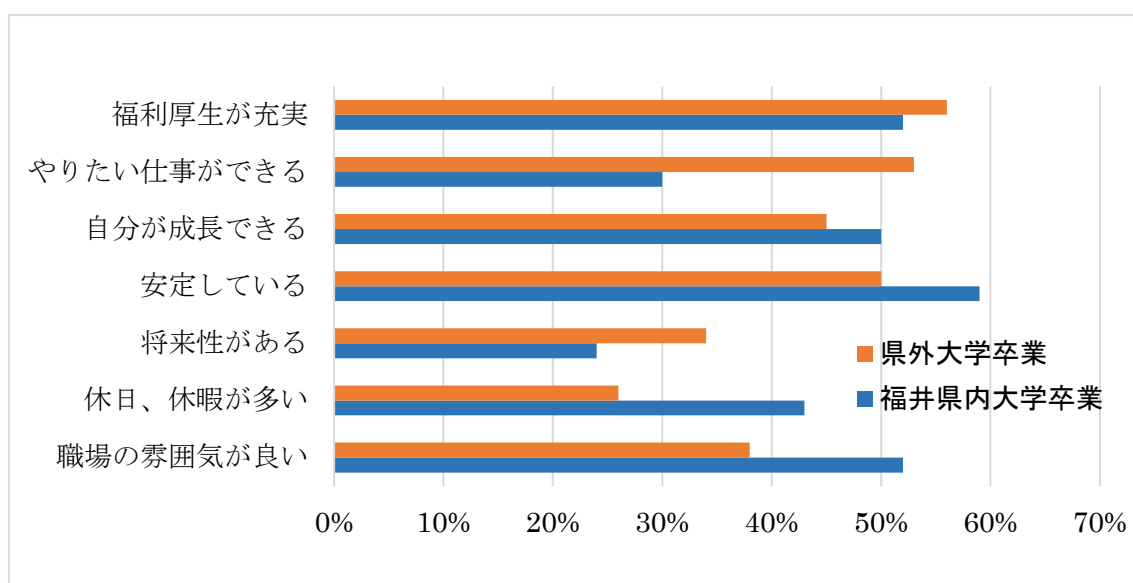
さらに、同調査の就職先選択理由の回答も県外

大学生と県内大学生に差が見られ、興味深い。県内大学生の回答は「安定している」59%、「職場の雰囲気が良い」52%、「休日休暇が多い」43%の項目で県外大学生の回答比率を上回っている。県外大学生は「やりたい仕事ができる」53%、「将来性がある」34%、で県内大学生の回答比率を上回っている(図4)。もちろん県外出身学生も福利厚生や企業の安定性は重視しているが、県内学生には労働環境を重視する傾向がみられ、県外学生には挑戦志向の高さがみられる。先行研究において地元大学出身で地元就職した学生は安定志向が強く、上昇志向が低いことは平尾、杉山も指摘している(平尾：2006、杉山：2012)。

いずれにしても参加者の約8割が福井県に就職していることから、インターンシップ参加を促進することは地元定着に有効であるといえるであろう。

次に県外大学との就職支援協定の有効性について考える。福井県は関西圏を中心に数多くの大学と就職支援協定を締結し、Uターン就職の促進に役立っている。就職支援協定締結の目的として、

図4 インターンシップ参加者の就職先選択理由



出所：福井県経営者協会 2020年アンケート調査より筆者作成

都市部の大学にとっては少子化で学生数の減少が予測される中、地元就職希望学生を支援することで地方からの入学者を増加させたいという思惑があり、地方県では大学を通じて地元企業等の情報を発信することで UI ターン就職の促進につなげたいという考えがある。福井県の HP によれば連携・協力項目の主たるものは、①福井県の企業情報、就職イベントの告知への協力、②県外の大学内で開催される合同企業説明会への参加、③学生の UI ターン就職にかかわる情報交換 他となっている。

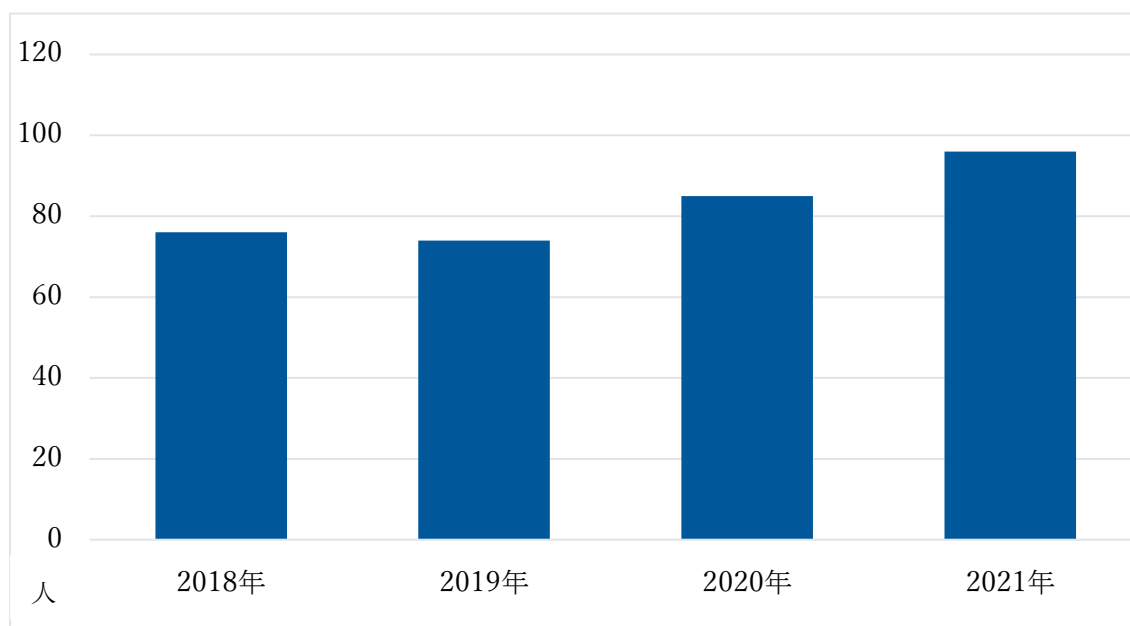
福井県は 2022 年 5 月現在、関西 25 大学、関東 14 大学、中京 10 大学の 49 大学と協定を締結している。石川県の締結が 39 大学、富山県が 20 大学であるから多いほうだと言えよう。協定締結の効果はどうか。協定大学の福井県出身学生は 2017 年度の 1,583 人から 2021 年度は 2,133 人へと増加している。また協定大学からの福井県インターンシップの参加者も図 5 のように増加している。この 2 点から考えると就職支援協定締結の効果はあると言えよう。

実際に都市部の大学の就職支援部署を訪問すると、各地域から就職関連のポスターが多く届けられ、襖 1 枚ぐらいのスペースに中部地方全県の就職情報が多数張られている。その中で協定締結地域の情報を優先的に掲示してくれるとなれば効果はあるであろう。また大学で開催される合同企業説明会は、その大学の学生参加者が多く PR 効果は高い。福井県立大学の場合、学内合同企業説明会の県外企業の参加数は 2 割程度に絞っており、県外企業の参加は狭き門になる。こちらも協定締結地域の企業が優先的に参加を認められるならば学生への有力な情報伝達の機会となるであろう。

5. UI ターン志向学生の意識と大学の支援

新規学卒者の UI ターン就職を促進するうえで、当事者である学生の意識や就職活動の進め方を把握することが必要になる。「U ターン就職をする学生は、当初から地元就職に絞り就職活動をしているのか」「U ターン学生が地元就職に期待することは何か」筆者は福井県が開催した合同企業説明会

図 5 就職協定締結校からの福井県インターンシップの参加者



出所：福井県 HP 掲載資料より筆者作成

に参加した県外大学の学生に直面でアンケート調査を行った³。その結果、①地元就職を前提にして就職先を探す学生、②保護者は地元就職を望むがやりがいのある仕事があれば地元で就職すると悩む学生、③就職地域にはこだわらず自分に適した職場を探す学生の3タイプあることが分かった(中里:2017)。さらにこの3タイプでは就職地域の選択理由が異なる。①のタイプの学生は「実家から通勤できる」「地元で貢献したい」という理由が高く、②のタイプの学生は「保護者が地元就職を望んでいる」「都市部のほうがやりがいのある仕事ができる」の回答がともに高く迷いが窺える、③のタイプの学生は全体的に回答割合が低いが、「都市部のほうがやりがいのある仕事ができる」「地元で貢献したい」が同じぐらいの割合になった。福井県のパンフレットで謳うような「働きやすさ」「暮らしやすさ」を求める学生ばかりではないことは、学生への情報提供を行う場合に留意する必要がある。

次に、県外大学生のUIターン就職について大学はどのような支援を行っているのか見ていく。上述の県外大学生調査において、就職情報の入手先はインターネットの利用(67.8%)と共に在学大学のキャリアセンター等の利用(66.7%)が高い。ただし、在学大学のキャリアセンター等で必要な情報を得られるとの回答は、21.1%にとどまっている。

筆者は、少し前になるが2015年に福井県の高校生が進学した福井県外の大学255校に調査票を送り、141校から回答を得た(中里:2017)。Uターン就職支援に力を入れているとの回答は46.8%になった。国公立大学が13.6%に対し私立大学は86.8%と学生のUターン就職を支援する大学が多い。大学は出身地での就職を希望する学生が多いため、Uターン就職を支援していると答えている。では、大学においてUターン就職を支援するため

にどのような事業を実施しているのか。「出身地別企業情報の掲示」「Uターン就職支援セミナーの開催」「出身地域での保護者会の開催」「担当者の出身地域企業訪問」「学内合同企業説明会に出身地域企業が参加」等になる。

出身地域の企業情報は、県外大学に十分届いているのか。同調査においては出身地域の就職イベントの情報に関しては「おおむね届いている72.0%」となった。企業の情報となると「大手企業の情報は届いている54.6%」「企業数が多くすべての企業の情報把握は難しい32.0%」となり、中小企業の情報は届いていないことが窺われる。実際に筆者が訪問した都市部の大学の就職支援部署には地方県の情報コーナーが設置されているが、大手企業の企業案内が数冊置かれている程度であった。更に筆者が訪問した都市部の大学の就職支援担当者との面談では、「地元学生向けの就職説明会で、地方県の担当者は暮らしやすさや働きやすさばかり強調するが、もっと地方の働き甲斐、地方ならではのやりがいを説明したらどうか」とのご意見が複数聞かれた。

地元就職を志向する学生は、必ずしも就職地域を定めその中で就職先を探す訳ではなく、地元就職の魅力は感じながらもやりがいのある職場、魅力のある企業を求めている学生も相当数いると思われる。在学している大学に届く情報は、地元の就職イベントや一部大手企業の情報に限られているようで、いかにして地元企業の魅力を必要な学生に届けるか更に対策が必要であろう。

6. 企業のUIターン学生の採用活動と課題

県外学生はやりがいのある仕事が地元であればと考え、県外大学は学生の出身地の企業情報を求めている。では、地方企業はUIターンの学生の採用にどのような意識を持ち、どのような採用活動

を進めているのか。中里の企業への調査⁴と福井県経営者協会のインターンシップ受け入れに関するアンケート調査から見ていく。

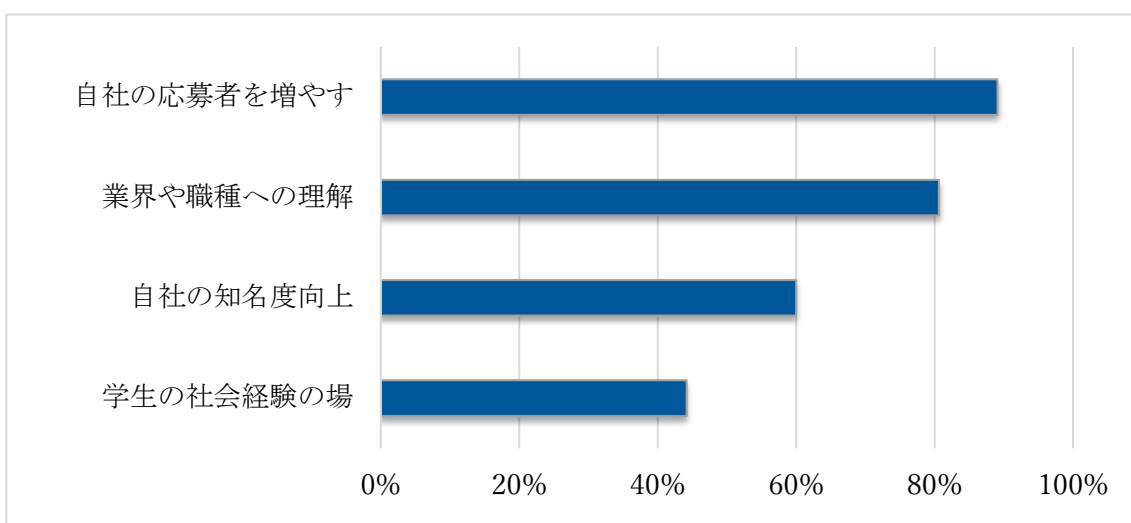
中里の調査によれば福井県企業は UI ターン学生の採用に、「かなり力を入れている 28.7%」「比較的力を入れている 57.4%」となった。力を入れる理由は「県内・県外にかかわらず多様な人材を採用したい 72.2%」が多い（中里：2017）。地方企業は UI ターン学生採用のために、「就職支援サイトへの企業情報の掲載 79.1%」「県の就職支援サイトへの企業情報の掲載 69.6%」「都市部で県が実施する合同企業説明会に参加 60.9%」「都市部の大学で開催される説明会に参加 51.3%」「都市部での就職支援企業の合同企業説明会に参加 37.4%」と様々な施策を取り入れている。この中で企業側が採用に効果があると考えていることは、第1位「就職支援サイトへの企業情報掲載」、第2位「都市部での就職支援企業の合同説明会に参加」、第3位「都市部の大学で開催される説明会に参加」となった。しかしながらマイナビ、リクナビといった大手就職支援サイトへの掲載にはかなり費用が掛かり、都市部の大学や就職支援企業主催の合同企業説明会には地方県の企業の参加数は限られ

ている現状がある。

インターンシップの受け入れについて福井県企業はどのように考えているのか。2021年福井県経営者協会が調査を行い、175社から回答が得られた。76%の企業がインターンシップを受け入れたと回答する一方で、11%の企業が募集はしたものの応募がなかったと回答している。インターンシップの実施目的は、「自社の応募者を増やすため 89.1%」が多く、「学生の社会経験の場を提供する 44.2%」を大きく上回る（図6）。筆者が実施した福井県立大学経済学部3年生の「インターンシップ」の授業内の調査⁵では、学生のインターンシップ参加目的は「自分の適性を知りたい 53.1%」「職場というものの理解 43.6%」が多く、企業のインターンシップ受け入れの思惑とは乖離が見られる。

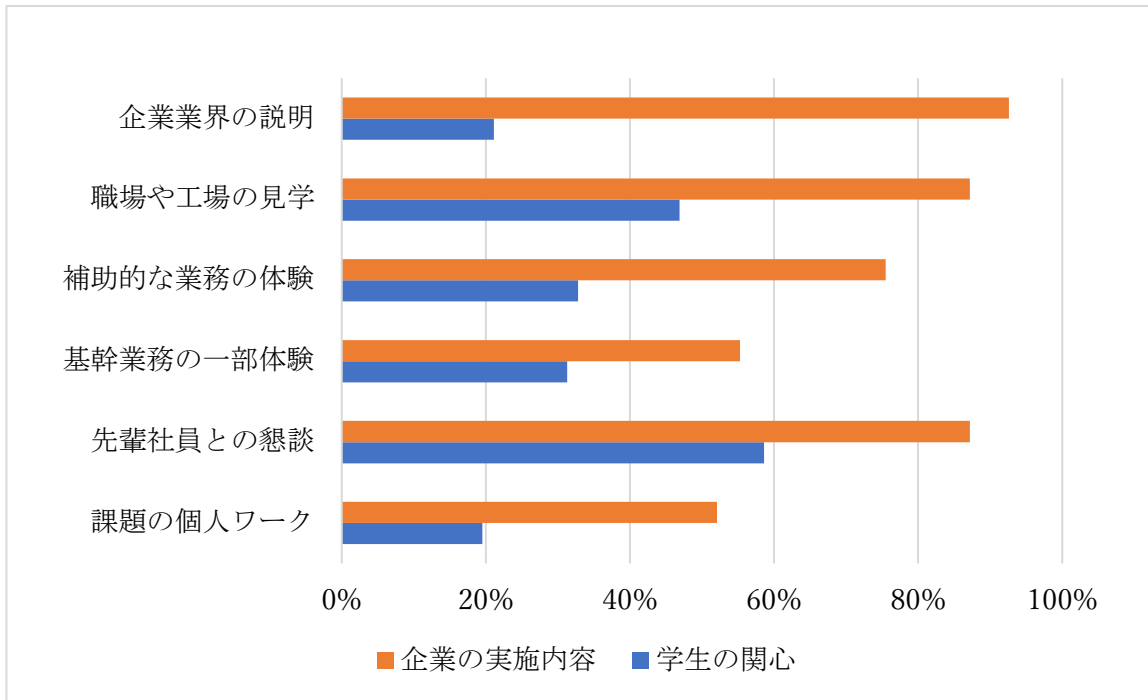
福井県インターンシップに参加した学生のアンケートによれば、参加者の約8割は福井県内に就職しているが、インターンシップ先の企業への就職は2割程度であった。企業側が実施するインターンシップの実施内容はどのようなものが多いのか。同調査によれば図7のようになり、「企業・業界の説明 99.3%」「職場や工場の見学 87.7%」「先輩社員との懇談 76.1%」が高い。一方で学生

図6 福井県企業のインターンシップ実施目的



出所：福井県経営者協会「インターンシップ取り組み状況調査」（2021年176社回答）より筆者作成

図7 インターンシップの内容と学生の関心



出所：福井県経営者協会アンケート調査より筆者作成

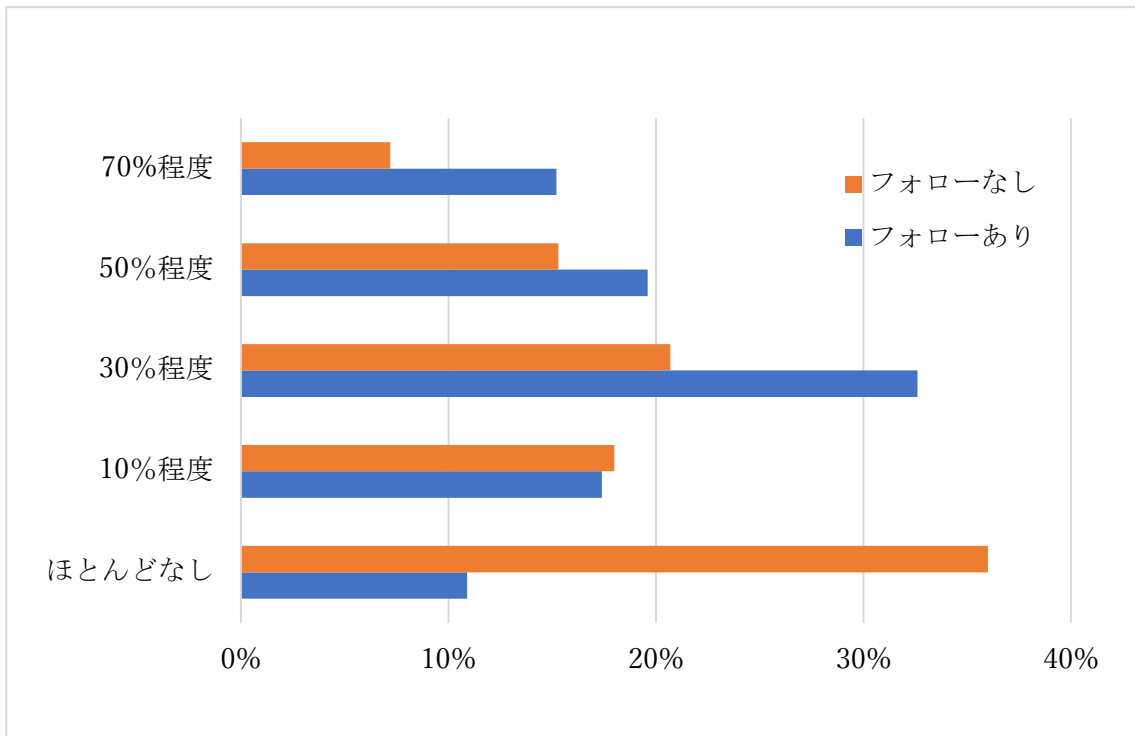
の関心が高いものは「先輩社員との懇談 43.5%」「職場や工場の見学 35.7%」であり、「企業・業界の説明 32.2%」や「課題の個人ワーク 15.6%」は学生の関心は高くない。学生の関心が高くない「課題の個人ワーク」とはどのようなものか。ある学生はインターンシップ先の製品を一つ選択し自分で調べ資料を作成し先輩社員の前でプレゼンテーションを行い、評価を受けたそうだ。「その企業に就職するわけでもないのに製品紹介に何の意味があるのか」と不満を述べていた。また、宿泊業でインターンシップに参加した学生は、4日間、到着客の荷物運びと宴席の料理盛り付けをさせられ「アルバイトのようだった」と感想を述べた。

企業のインターンシップ受け入れには、「自社の応募者を増やす」という意図がある。ではインターンシップ参加者⁶はどの程度その企業の採用試験を受けているのか。図8は同じ経営者協会のアンケートに対する企業側の回答である。参加者の3割程度が採用試験に応募しているとの回答が多

いが、応募者はほとんどいないとの回答もある。注目されるのはインターンシップ後に懇談会の開催や勉強会の開催などフォローする活動をしているかどうかで応募率に差が生じていることだ(図8)。5日間という短期間で仕事のやりがいや企業の魅力がすべて把握できるわけではなく、インターンシップ参加を出発点として応募先を探し始める学生にとり、インターンシップ後も継続的に接点を持つ企業への応募が高くなることは、納得できる。地方企業はUIターン学生の採用に力を入れているが、都市部での採用活動の展開には厳しい状況がある。都市部の大学や就職支援企業の合同企業説明会に参加することは地方出身学生と直接話ができる機会が得られ効果は高いと思われる。ただし多くの地方企業が参加を望む中で、参加企業数は限定され、特に地方の中小企業がその機会を得ることは難しいであろう。

インターンシップの受け入れは採用に結びつくのか。企業側はインターンシップの受け入れにつ

図8 インターンシップの参加と採用試験の応募



出所：福井県経営者協会アンケート調査より筆者作成

いて応募者を増やしたいという明確な意図を持っている。経営者協会の調査によればインターンシップ参加者がその企業の採用試験に応募する割合は、3割ぐらいにとどまり、応募がない場合も多いという。この状況には2つの理由が考えられる。第1は、企業が提供するインターンシップの内容と学生の求めるものに差異が生じている可能性である。インターンシップに応募する5月初旬ではまだ学生の就職先は絞れていないという状況を踏まえ提供内容を再構築してみたらどうか。第2は、インターンシップ実施後にフォローがあるかないかで採用試験の応募率に差が生じていることである。学生の一生を託す職場として選ばれるためには、企業も時間と手間をかける必要があろう。

7. 結び 新規学卒者の地域定着を増やすためには

筆者や経営者協会の調査からは、UIターンを志向する学生には、地元で生活することを前提として就職先を探す学生と、やりがいのある職場・仕事があれば地元に戻りたいと考える学生がいることが明らかになった。また、地域の大学に在学する県外出身学生もやりがいを見つければ地域にとどまり就職する可能性も見えてきた。大学3年次の後半からは実質的な就職活動が始まり、学生たちは応募先を見つけ、採用試験を受ける流れに押し流されてしまう。自分を生かす道が地元にあることを見つけるには、大学の1, 2年次または県外に進学する場合には高校時代に地元企業の魅力、地元の仕事に触れることが重要であろう。

インターンシップは、地元の企業を知る上で効果的であると考えられる。地元でのインターンシップ参加者の約8割がその地域に就職するなど効果も検証されている。一方で中小企業の場合、応

募者が少ない、採用に結びつかない状況も発生している。福井県経営者協会はインターンシップ後に、事後報告会を開催している。また大学でもインターンシップの参加報告会を開催する場合は多い。応募者の少ない中小企業はそのようなイベントに参加し、学生が何を求めているか把握することが必要であろう。また、インターンシップの期間だけでなくその後に懇談会や勉強会を設けるなど学生との接点を増やすことは、自社の魅力を伝えることにつながり応募者の増加に寄与するのではないか。

近年は1day インターンシップなど、企業説明会に近いインターンシップも多くに行われている。福井県のインターンシップの場合2週間以上の長期インターンシップは受け入れ企業も少なく、参加する学生数も限られる。仕事のやりがいを知り企業の魅力に触れるためには長期のインターンシップがより広まることを期待したい。

次に地元の中小企業が UI ターン学生を採用するためには何が必要になるのか考える。県外大学生は就職情報の入手や相談機関として在学する大学のキャリアセンター等や就職支援サイトが大きいという調査結果がある。対面でのコミュニケーションが取れる在学大学での合同企業面談会への参加や都市部で開催される大手就職支援企業の合同企業面談会に参加することは、学生への告知機会が増加し企業の信頼性も向上する。ただし地方の場合そのような就職イベントに参加できるのは一部の大手企業に限られ、地方の中小企業は難しいという現実がある。

大学はどのような基準で、学内で開催される合同企業説明会の招待企業を選択するのか。その大学からの採用の実績と学生の人気の2点が大きいのではないか。つまり、採用数もそれほど多くない地方の中小企業であれば、特定の大学とネットワークを作り継続的に就職イベントに参加し、毎

年その大学から採用することが招待につながると思われる。福井市に本社のある株式会社松浦機械製作所（従業員数400名）は長岡技術科学大学とネットワークを持ち継続的な採用に成功している。

もう一つの方法は、都市部で単独の採用活動を展開するのではなく、異業種の中小企業がグループを作り採用活動を進めることである。福井県が就職支援協定を結んでいる大学であっても単独の中小企業が何社も企業説明の開催を働きかけても対応できないであろう。福井県立大学にも中京地方や北陸地方の企業から大学内での企業説明会開催の要望が多数届く。残念ながら知名度がないために参加学生が集まらず開催に至らない場合が多い。

地方の中小企業はインターンシップの受け入れにしても採用活動にしても、UI ターン学生だけでなく県内大学在学生の採用にも苦勞していると聞く。自治体や経済団体とも連携しながら自社の働き甲斐をいかに学生に伝えるかという点に知恵を出し合い、進めることで道は開けるのではないであろうか。

謝辞

本稿の執筆にあたり、以前中里が実施した学生や都市部での大学調査に加え、福井県経営者協会様、福井県定住交流課様等にお話を伺い新たな資料をご提供いただいた。この場を借りてお礼申し上げます。そしてこのような講演の機会をご提供くださった、佐賀地域経済研究会様、佐賀大学様に改めて感謝を申し述べたい。

佐賀県、福井県に限らず若者たちが地域に魅力を感じ、地域の企業等での仕事にやりがいを感じて定着し、地域を発展させることを心から願っている。

注

¹福井県定住交流課では、毎年県内の企業事業所に採用された新入社員の数と出身大学等の調査を行い、Uターン比率を策定している。分母は、大学学部卒は4年前、短期大学卒は2年前の県外進学者数である。

²各大学の就職支援部署の統計では、本社所在地が福井県内にある場合を福井県内就職と規定している。

³ 2016年3月に開催された福井県の合同企業説明会「ふくい若者就職応援キャリアフェア」（会場サードーム福井）に参加した県外大学の学生に直面でアンケート調査を実施した。有効回答数171名。この後、合同企業説明会は開催時期の移動やコロナでの開催中止、オンライン開催になるなど、近年では2016年の参加者が一番多くなっている。

⁴ 2016年10月に福井県に本社または事業所のある196社に新規学卒Uターン者の採用について郵送によりアンケート調査を実施した。有効回答数115社。

⁵ 2020年4月、福井県立大学経済学部インターンシップ授業中に学生に行った「インターンシップ参加の意識調査」回答数90名。

⁶ この場合のインターンシップ参加者は、主に夏休み期間に行われる5日以上インターンシップだけでなく、秋から冬に行われる1日から2日の短期のインターンシップも含む。

参考文献

杉山成「大学生における地元志向意識とキャリア発達」『小樽商科大学人文研究』pp123-140 2012年 小樽商科大学

中里弘穂「新規学卒Uターン志向者の就職意識と支援の課題」『地域経済研究』pp67-68 pp69-70 pp72-73 2017年 福井県立大学

中里弘穂「新規学卒Uターン就職者に対する就職支援」『経済教育』No35 pp66-70 2016年 経済教育学会

平尾元彦「大学生の地元志向と就職意識」『大学教育』pp161-168 2006年 山口大学

福井県経営者協会「人材採用に関する取り組み状況調査」2021年8月

福井県定住交流課・福井県経営者協会「大学生インターンシップ等に関する取り組み状況調査結果」2021年3月

福井県立大学中里弘穂研究『新規学卒者のUIターン就職支援を考える』2017年中里弘穂研究室

福井県産業労働部大学就職支援協定サイト
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/wakatei/uturn/kyoutei.html>

福井県交流文化部定住交流課
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/wakatei/>

(株)松浦機械製作所 <https://www.matsuura.co.jp/japan/>

